



【学校教育目標】「人間性豊かな心を持ち 実践力のある生徒の育成」  
— 気づき、生かす —

# 若松中だより

千葉市立若松中学校  
校報  
第 21 号  
令和 2年 9月 7日

## 修学旅行から何に気づき、どう生かすか

校長 古市 直彦

前号でもお知らせしたように、子どもたちの活動が「光輝燦然」と光り輝いていた修学旅行でした。しかし、大切なのは、この修学旅行でどんなことを学び（＝気づき）、どのように生かしていくかだと思っています。

修学旅行の翌日、事後指導として行った学年集会の中で、今回の修学旅行で実行委員長を務めてくれた\_\_\_\_\_君（3-5）が次のような事を話してくれていました。

修学旅行お疲れ様でした。

僕は去年の自然教室に引き続き実行委員長をやらせていただきましたが、皆さんのおかげで、自分の目標である「去年の反省を生かす」を達成することができました。ありがとうございました。

僕の方から、全体を通しての反省をさせていただきたいと思います。

全体を通しての課題として、まず、小さな事で注意を受けることが多かったと思います。例えていいますと、無言移動の時とかできていなくて実行委員が先生方から指導を受けることがありましたが、これについては自分で改善しようと思えばできることです。しっかりと考えて行動できるようにしましょう。

二つ目は、実行委員に頼りすぎることがあったということです。

今後、同じような活動があったら、ひとに頼るのではなく、自分で考えて行動し、逆にまわりにいる人を自分が引っ張っていけるようにしていきましょう。

三つ目は成果です。皆さん、旅行を通してとても成長したと思います。これから先、合唱コンクールや体育祭もあると思います。それが終わったら、受験に向けて一直線になります。自分の最終的な目標に向かっていくためには、自分自身の努力が必要です。この修学旅行で培ったことを、この先の学校生活で生かせるようにしましょう。



額くような表情で話を聞いていた生徒も多く、今回の修学旅行で得た成果や課題を、今後に生かしていきたいと思ってきている生徒が多いようで素晴らしいと感じました。

また、同じ集会で、今回の修学旅行の企画を担当した3学年職員の\_\_\_\_\_先生からは、次のような話がありました。

まず、無事に修学旅行を終えられたことを嬉しく思っています。

今回の修学旅行は、様々な制限がかかってしまい、満足のいく修学旅行になるか心配でしたが、たくさんの生徒からお礼を言ってもらえ、皆さんの思い出に残るものにできたんだと実感することができました。ただ、皆さんを支えていたのは学校の職員だけではなく、それぞれのご家庭の方も、皆さんを心配し、



応援してくれていました。感謝の気持ちは忘れないようにしてほしいと思います。

中学校生活の大きな行事の一つが終わってしまいましたが、まだまだ行事は残っています。今後も皆さんの成長が見られると思うと、本当に楽しみなことばかりです。卒業まで、残すところあと半年となります。悔いを残さないように、毎日を大切にしていきたいと思います。

この話も、子どもたちは真剣な表情で聞いてくれていました。しかし、私としましては、このコロナ禍の中、修学旅行に行くという判断をしたことが、本当に正しい判断だったのか、自責の念に絶えません。学校再開以来、総体の中止等、いろいろな事にガマンしながらも、一生懸命、若松中の最上級生として頑張っていた3年生を何とか修学旅行には行かせてあげたいという思いで決断しました。その決断自体を後悔はしていませんし、もしもう一度同じ状況が起きたとしても、同じ判断をしただろうという思いはあります。これは、事後集会の中で、子どもたちにも伝えました。ただ、それが本当に正しい判断だったのか…。修学旅行の3日間は無事に終わりましたが、今後さらに10日間ほどは感染による発症のリスクがありますので、今まで以上に健康観察・健康管理に留意してもらわなければなりません。子どもたちの健康を第一に考えるならば、心を鬼にしても中止の判断をすべきではなかったのか…



また、本校は、宿舎でも訪問・体験先でも、行く先々で「よくぞ来て下さいました」と歓迎していただきましたが、往復共に貸し切りバスを利用して長野県に行った他校の例では、トイレ休憩で立ち寄ったサービスエリアで「チェッ」と舌打ちされたこともあるようです。「このコロナ禍の中、何で修学旅行に来るんだよ」という気持ちの方もいらっしゃるということでしょう。

ただ、先日、ある保護者の方から、次のようなメッセージをいただくこともできました。

昨夕、中3の息子が「楽しかった～」の第一声と共に無事に修学旅行から帰宅できました。どの行程も先生方の並々ならぬ配慮と想いがあってこそだと言葉にしかけてやめました。しっかり感じていると思ったからです。

日々拡大していくコロナ、無理して行かなくても…と思った時もありましたが、この時期、中3のこの時期だからこそ修学旅行に行く意味があるのだと、この数ヶ月間の先生方の思いを振り返りつつ、帰宅時の息子の表情を見て感じました。

お忙しい中での毎日のメール連絡も安心して保護者へご配慮いただきまして、ありがとうございました。先生方のご尽力の賜物、心より感謝申し上げます。お疲れ出ませんように。

そして、先生方、長野で関わってくださった皆さま、2週間後もご無事でいらして欲しいと願います。大きな台風が近付き心配事つきませんが、何かお手伝いすることあればいつでもお伝えください。この度は、本当にありがとうございました。

私自身としましてもいろいろなことに気付くことができた修学旅行でした。今後の学校運営に、絶対に生かすようにしていきたいと思っています。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

